



緑 × 瓦 × 壁

3つの機能の叡智を、ひとつにしたもの。

壁面緑化

伝統のいぶし瓦と緑が生み出すやさらか「和」の空間は、人々を自然のなかへ誘います。
この壁面緑化は、意匠の工夫によって、あらゆる環境に対応でき、さまざまな効果が期待されています。
建物外壁の蓄熱を緩和し、室内外の無機質な空間のなかへ涼風を呼び起こします。また、最近では壁面・インドア緑化は、いやし空間の提供により集客を図る、広告宣伝効果も期待されています。いぶし瓦と緑は自然素材ゆえ、精神的セラピー効果が期待でき、環境意識の高まりのなかで、店舗においても住環境のなかでも、人びとに安らぎを与える素晴らしい素材です。いぶし瓦と緑を組み合わせた美しい壁面緑化は、古代からのメッセージであり、「環境の時代」に新鮮な驚きをもって受け入れられることでしょう。導入に際しては、各種助成・補助金を受けられる事があります。

Feeling of Thankfulness!!

ecological **エコイカル**

〒656-0331 兵庫県南あわじ市湊里1387 TEL.0799-36-5055 FAX.0799-36-3359

E-mail : kikukawa@blue.sansan-net.jp

人にやさしい



製品ラインナップ lineup



トライアングル
(300×300)
triangle



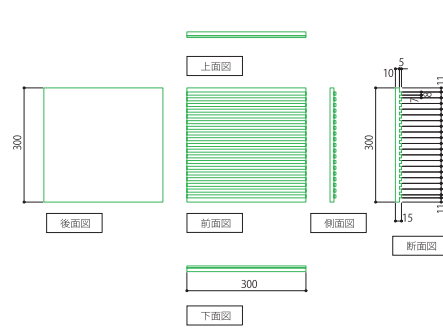
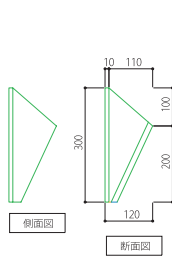
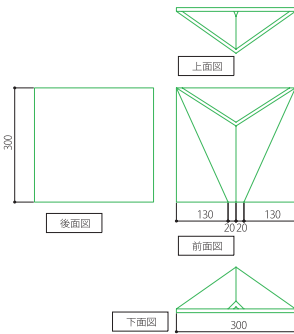
ボーダー
(300×300)
border



プレーン
(300×300)
plain



兵庫県立淡路夢舞台温室 ～奇跡の星の植物館～ 植栽・レイアウト：(株)本智子環境デザイン研究所



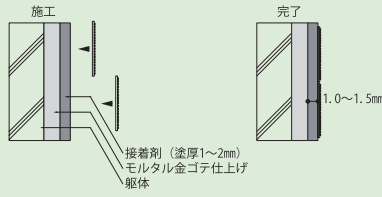
瓦張りの設計と施工

1. RC造建築物外壁への施工

接着工法

接着工法は硬化後も弾性のある専用の接着剤を用いて瓦を張り付けます。接着剤層で躯体や下地の動きを吸収し、タイルに応力を伝えにくいいため、剥離やひび割れの発生を抑制効果があります。モルタル施工の場合は剥離防止のために目地詰めが必要ですが、モルタルに応力が発生しにくい接着工法では、必ずしも目地詰めは必要ありません。このため、深目地で陰影のある壁面や、細め字の施工が可能となります。

※施工方法、植物・土の選定や灌水計画については、ご計画内容により異なりますので、現場ごとにご提案致します。是非ご相談下さい。
※推奨接着剤：1液型弾性接着剤



2. 鉄骨造建築物外壁への施工

① ALCパネル(100mm厚以上)へのタイル仕上げ

ALCパネルへの瓦張りは接着工法が適用できません。ALCパネルは100mm厚以上とし、縦壁ロック工法、縦壁スライド構法とします。

・縦壁ロック工法および縦壁スライド構法(乾式)の場合は、タイルがパネル目地をまたがらないように割り付けます。縦壁スライド構法(湿式)の場合には、伸縮目地以外はまたがって割り付けることが可能です。

ALCパネルの伸縮目地の位置は、タイル表面も伸縮調整目地とします。

② 薄型ALCパネル(50mm厚)へのタイル仕上げ

・薄型ALCパネルへのタイル仕上げは接着工法が適用できます。

・薄型ALCパネルは50mm厚とし、横張りされたパネルとします。

③ 押出成形セメント板へのタイル仕上げ

・押出成形セメント板へのタイル仕上げは接着工法が適用できます。

・押出成形セメント板は60mm以上のフラットパネルを使用します。

・瓦は、押し出し成形セメント板1枚ごとに割り付け、パネル目地は全て伸縮調整目地とします。

製品に関するお願い

粘土瓦の特性について

- 粘土成分の違いや気圧など気象条件による焼成環境の変化により、微妙な色ムラが発生している場合があります。
- 焼きもの特有の若干のネジレや寸法のバラつきがある場合があります。また瓦は重ね合わせて施工していきますので、葺き上げ後に瓦と瓦の間にスキマが発生することがあります。
- いぶし瓦の表面は炭素で焼している(ダイヤモンドと同じ元素、ダイヤモンドは超高压で圧縮している)ので、強くこすらないで下さい。新しい間は少しのスレでも黒くなりますので、施工中でも気をつけて下さい。少々キズは1~2年でわからなくなります。
- いぶし瓦は経年の変化による黒ずみ・白色アケなどの色変化が発生する場合がありますが、これは自然素材であるいぶし瓦特有の現象であり、品質の劣化を伴うものではありません。
- いぶし瓦は天然素材であるので、粘土に含まれる鉄分の多い粘土の場合は、施工中または施工後すぐに雨が降ると、斑点状の赤錆が瓦の表面に発生する場合がありますが、これは瓦の劣化ではなく、数回の雨で流れ落ちます。長いもので一年位で消えてなくなります。

【安全に関するご注意】

- 粘土瓦の施工には専門の工事が必要です。専門工事業者にご相談下さい。工事に不備があると、落下・雨漏り等の原因になることがあります。
- 粘土瓦を使った屋根は、関連する工事標準仕様書に基づいて設計して下さい。特殊な設計を行う場合は、専門工事業者にご相談下さい。
- 極寒地または多雪地域での使用の場合は施工店または当社にご相談下さい。